

2012年 秋号

第79号

僧伽編集委員会

〒921-8031
金沢市野町2丁目32-4
徳法寺内
TEL (076) 241-5219
題字 本多 千翠

僧伽

終わりの日の喜びのために

桜井哲夫 『天の職』



孤独 闇 そして光を

常德寺 西山 彰

今年の五月二十七日に放送された「日曜美術館」をご覧になった方はおられるだろうか。

木下晋^{すずむ} 六十四歳。鉛筆一本で、人間の孤独や闇と向き合い続ける画家である。この春、木下は、一人の人物の肖像に取り組んだ。それを密着取材したドキュメント「孤独 闇 そして光を」は、鮮烈だった。

写真は、昨年末八十七歳で亡くなった詩人・桜井哲夫さんの肖像画と作者である。ハンセン病の療養所で生涯をすごした桜井さんと木下は、長年交流を重ねてきた。亡くなる半年前、桜井さんが木下に言った。「自分が合掌する姿を描いてほしい。」木下から東日本大地震の話聞いた桜井さんからの願いだった。

親父は拳で涙を拭い
低い声で話してくれた
らいは天が与えたお前の職だ
長い長い天の職を
俺は素直に務めてきた
今朝も雪の坂道を務めのため
上りつづける
終わりの日の喜びのために

桜井哲夫 『天の職』

終わりの日の喜びのために、人が生きる意味をこれ以上雄弁に語る言葉があるだろうか。

「御絵伝」でたどる 親鸞聖人のご生涯

(20)

第二十回目は「病床説法」

「洛陽遷化」「入滅葬送」と、三つのお話の一つの絵の中に描かれています。

まず、右下に、火鉢を囲んで僧侶が話をしているように見えるのが「病床説法」です。親鸞聖人が最期を迎えられたのは、四人いたとされる弟のうち、次男の尋有権小僧都の住まいであった善法院です。この場面は、病状が芳しくない親鸞聖人を関東から見舞に来た顕智という弟子が、親鸞聖人の長男である善鸞上人も京都に来られるようにと勧めたのですが、親鸞聖人がかたくなにそれを断っています。ころだと言われています。親鸞聖人の葬儀に、善鸞上人が列席しなかったのは、

親鸞聖人自身の意向であったことを表しています。

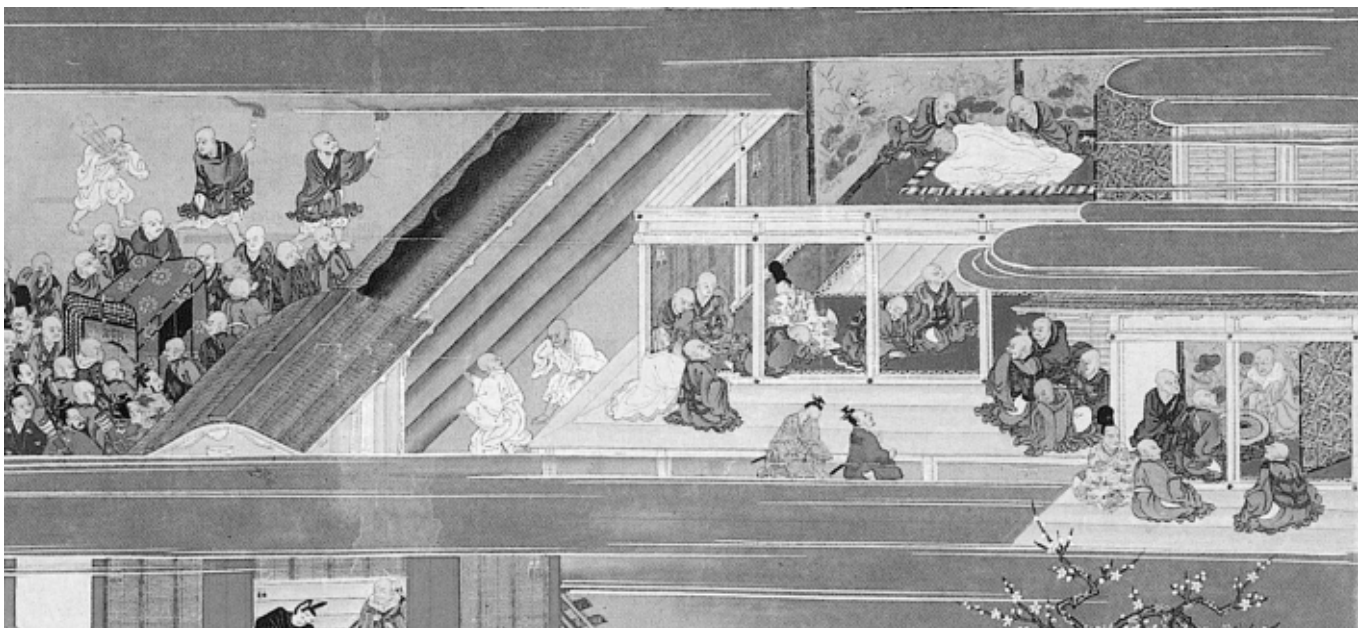
その左上が、「洛陽遷化」といわれる親鸞聖人臨終の場面です。一二六二年十一月二十八日正午であったといわれます。頭を北に向けて右脇を下にして最期を迎えるという、お釈迦さまに倣った臨終の作法をとっておられます。枕元にいる僧が亡くなられた聖人の頭を綺麗に剃髪している場面が描かれています。

そして、左の門の外に描かれているのが「入滅葬送」の場面です。親鸞聖人が納められた柩とそれを持つ多くの門弟たち、そして火葬は夜に行われますから、松明を持つ先導の僧と、薪を持つ火葬人が描か

れています。

この当時、尊い方が亡くなれると、奇瑞きずねと呼ばれる不思議な現象が起こるとされていました。親鸞聖人の師である法然上人絵伝の臨終を迎えられる場面には、紅の雲がたなびく中、阿弥陀如来が天空から現れ、放たれた一筋の光が、法然上人の額まで届いている様子が描かれています。親鸞聖人も法然上人が亡くなられる時には、紫の雲から光がさし、天空から音楽が響き、何とも言えない芳しい香りがたちこめた、と言われています。もともと親鸞聖人は、法然上人の葬儀には立ち会えませんでしたので、そのように伝え聞いたというところなのでしょう。

ところが、親鸞聖人の臨終の場面には、このようなことが一切描かれていません。演出的な意味でも描かれそうなものなのですが、それが無いというところがいかにも親鸞聖人らしいところではあります。(浄)



本の紹介

「続・悩む力」

姜 かん 尚中 さんじゅん 著

集英社新書

七四〇円十税

以前、姜尚中氏の『悩む力』をこのコーナーで紹介させていただきましたが、今回はその続編を紹介します。

四年前に前作が出版されたのち、日本人は東日本大震災という、忘れることのできない大きな出来事を経験しました。そのことが、姜氏に続編を書かせた直接の動機になっています。

本書は、前回と同じく、夏目漱石、ウエーバー、フランクルの思想をヒントに論考を進めるスタイルをとっています。ほぼ同時代に生きた東西の知の人達を足掛かりにした、文学、哲学、宗教から科学までの多岐にわたる思索は、大変示唆に富んでいて樂

しめます。しかし、三・一一の未曾有の悲劇を経て、「幸福」とは何か、「人間とは何か」という姜氏の問いは、本書においてより切実なものになっていくように思われます。

ここでは、最終章の議論を中心に紹介することにします。

氏が思索の最後にたどりついた結論は、「それでも人生にイエスという」という言葉に集約されます。これはドイツの心理学者フランクルの著作の題名です。

ビクトール・フランクルは、第二次世界大戦中に、ナチスによって収容所生活之余儀なくされたユダヤ人の一人で、その体験をつづった『夜と霧』は大変有名です。

『それでも人生にイエスという』は、もともと、収容所に暮らす人々が、希望をつなぐために作った歌の題名だったそうです。語

感から受けるおおらかな楽天主義とは真逆の、明日の命の保証もない極限状態の中で生まれた言葉でした。

この言葉を解釈して、姜氏は、「イエス、自分は受け入れる」「イエス、それを受け入れる」と答えています。そして「人生とは、『人生の方から投げかけられてくるさまざまな問い』に対して、『私とである』と結論付けています。

人生の意味とは何か、人間にとっての幸福とは何か、そんな「問い」は、地震や津波といった自然の猛威の前ではあまりにも無力でした。そうではなくて、逆にそういう悲劇から問われてくるものに、「答えていく」のが人生だとい

うのです。また姜氏は、「幸福」とは求めるものではなく、人生からの問いに答え終つ

た時の結果に過ぎないとも述べています。だから、「つまらない人生だと思えても、いよいよ人生が終焉する一秒前まで、よい人生に転じる可能性がある」と言うのです。

人生を「問う」者から、人生に「答える」者へ。人生に「求める」者から、人生を「受容」する者へ。この発想の転換は、混沌の時代を生きる私たちに勇気を与えてくれるものです。

経済危機、不況、失業：と希望のない時代を我々は生きています。しかしそんな時代だからこそ見えてくる真実があります。苦難の中でこそ掴める普遍的な真理があると思うのです。

それは親鸞聖人の「末法」という時代感覚にも通じるものだと思います。

(彰)



法然上人臨終來迎の場面

真宗人物伝

第二十八回

徳法寺 杉谷 浄

成然

今回は親鸞聖人の弟子で、関東二十四輩の第六番である成然です。成然や常念とも書かれますが、当時は今のよう、どの漢字を使うかはこだわっていませんでした。「さしま(幸嶋または猿島)のじょうねんぼう」と呼ばれ、関東で広く親鸞聖人の教えを伝え、後に猿島門徒と呼ばれる門徒集団を形成します。

成然を開基とする妙安寺の寺伝などによれば、俗姓は藤原氏従三位九條中村頼国(幸実または行実)であったといわれます。これが事実であれば相当に位の高い貴族です。しかも親鸞聖人の師である法然上人の最大のパトロンであった関白太政

大臣九条兼実の家門もしくは子息であることになりま

す。その頼国が無実の罪を着せられて下総国猿島(現在の茨城県境町)に配流となりま。この頃、親鸞聖人も常陸(現在の茨城県)の稲田におられたので弟子入りしたといわれています。親鸞聖人が京都に帰られる時、別れを惜しむ成然に「私を懐かしく思う時はこの像を見なさい」と、自らの手で自身の木像を彫って渡したといわれます。成然はこれを妙安寺に安置しましたが、後に東本願寺に譲り、替わりに賜った「御引替の御影」が現在安置されています。つまり、現在東本願寺で私たちが手を合わせているのが、成然が親鸞聖人から頂いたものという

ことになります。この妙安寺は元来、聖徳太子が建立したと伝えられている三論宗の葛城寺を成然が再興したもので、国の重要文化財に指定されている「聖徳太子絵伝」も寺宝として伝わっています。

関東では成然を玉日姫の兄である、長らく伝えられていました。この玉日姫とは、近年まで親鸞聖人の妻であると言われていた方です。九条兼実の娘とされていますから、成然とは兄弟か親戚ということになります。ですから、成然は親鸞聖人の従弟もしくは義理の兄弟ということになるわけです。それならば、自作の木像を渡したという話も信憑性が出てきます。

親鸞聖人にはもう一人、三善家の出身である恵信尼という妻の記録があり、どちらが本当なのか長く論争がありました。しかし、大正十年に西本願寺で恵信尼文書が発見され、玉日姫は伝説上の人物であるという

見方が、今では大勢を占めています。そのために親鸞聖人と親戚関係にあったとされた成然の影も少し薄くなってしまう。ところが、今年の六月に玉日姫の遺骨が発見されたというニュースが新聞に流れました。玉日姫のお墓は関東と京都にあるのですが、京都の西岸寺に伝わる墓所から、骨壺と骨の破片が出たこと、京都市埋蔵文化研究所が発表したのです。骨の大部分は頭部のものであり、性別や年齢は分からないとのこと。骨壺は江戸後期のものですが、その時期に墓所が改葬されたという文章が残っているために、新しい壺に遺骨を入れ替えた可能性もあります。この発見によって玉日姫の存在が再び認められるかどうかは分かりませんが、まだまだ歴史は揺れ動くようです。

杉谷浄の

ラジオ案内

十月二日(火)
十一月六日(火)
十二月四日(火)
一月八日(火)
F M N I (七十六・三MHz)で午後一時半から一時間放送します。
番組名は「生活一番シャトル便 住職のよもやま話」です。再放送は放送日の週の土曜朝六時からです。インターネットでも聞けます。

『心の相談室』

毎月第四土曜日
午後三時～五時
東別院横

「いちよう館」二階
相談料無料

日常生活でのいろいろな悩み、家族のこと、友達のこと、学校のこと、仏事の疑問等を、僧侶がお聞きます。

和讃に学ぶ

第四十回

常徳寺 西山 彰

善光寺の如来の

われらをあわれみ

ましまして

なにはのうらに

きたります

御名をもしらぬ守屋にて

(なにはのうら：摂津

の難波、今の大阪のこ

と)

長野市の善光寺の本尊は、

「二光三尊」の阿弥陀仏です。

これは秘仏としても有名で、

六年に一回御開帳がありま

す。が、これは前立本尊と

言つて、本物ではありません

ん。レプリカです。(だまされ

てはなりません。)

さて、この和讃は、百済

から難波の浦に、この「一

光三尊」の阿弥陀如来像が

伝わったことを述べてい

ます。

その如来のお名前も知ら

ない守屋は……と続きます。

守屋というのは物部守屋

のことで、物部氏は、仏教

を日本に取り入れることに

反対して、最後は曾我氏に

滅ぼされたことでも知られ

ていますね。

そのときほとをりけ

とぞまふしける

疫癘あるひはこのゆへと

守屋がたぐひはみなと

もに

ほとをりけとぞまふし

ける

(疫癘…熱病、流行病)

守屋は如来を「ほとをり

け」と申したとあります。

なんと、これが「ほとけ」

という言葉の由来なんです。

これはゆゆしきことです。

なぜかと言えば、当時熱病

が流行していて、物部一族

は、その原因が仏教にある

と主張していました。そこ

で彼らは、たたりの原因で

ある仏像を、熱気(ほとを

りけ)と呼んだというので

す。つまり「ほとけ」とい

う言い方は、もともとは仏

教排斥者がつけた蔑称だっ

たのです。

やすくすめんためにとて

ほとけと守屋がまふすゆえ

ときの外道みなともに

如来をほとけとさだめたり

もうこうなつたらボロカ

スです。ここでは、如来を

ほとけとよぶのは外道であ

るとまで述べられているの

です。私たちは「仏様」な

んて言えなくなつてしま

ます。

でも深刻に考えるのはや

めましよう。すでに時代を

経て、一般的な呼び名と

なつた「ほとけ」という言

い方を、今更やめるわけに

もいきませんから。

この世の仏法のひとは

みな

守屋がことばをもとと

して

ほとけとまふすをたのみ

にて

僧ぞ法師はいやしめり

これもきついですね…

でも、この慣れ親しんだ言

葉の由来が意外なところに

あり、しかもそれが日本に

仏教が伝来したころのエピ

ソードだというのは、なか

なか面白いではありません

か。…深刻に考える必要は

全くありません。

弓削の守屋の大連

邪見きはまりなきゆえに

よろづのものをすすめ

と

やすくほとけとまふしけ

り

(弓削…地名で今の大

阪府の八尾市にあ

る)

邪見きはまりなきゆえに

…か、まあ、話題の一つと

いうことですからおきま

しょう。

ところで、テレビドラマ

などで、刑事が死体のこと

を「ほとけさん」と呼ぶこ

とがあります。仏教者とし

てはあまり気分のいいもの

ではありませんでしたが、

この由来を知つてからは、

あまり気にならなくなりま

した。

すべては、話題の一つと

いうことで……いやはや

……。

(彰)



真宗豆知識

夜叉ヤクシャ

前号の和讃のコーナーで龍のことを書きましたので、もう一つの仏教の脇役である夜叉の話を書きます。

日本では「金色夜叉」やマンガの「犬夜叉」で知られる夜叉ですが、実は仏教とともに伝来した外国生まれの神様です。

元々はインド神話に登場する鬼神の名前で、アスラ（日本では阿修羅）とも混同されます。夜叉には男と女があり、男をヤクシャ、女をヤクシーもしくはヤクシニーといいます。財宝の神クベーラ（日本では毘沙門天、多聞天）の眷属とされ、ヤクシャは森の精霊や水の守り神、ヤクシーは豊穣をもたらす美しい女神と伝えられています。古代インドのバラモン教寺院の前には一対の男女の

夜叉像を置いて守護神としたといわれ、日本寺院の門を守る金剛力士像はその名残であるともいわれます。タイ仏教では今でも門の両脇に緑色と赤色の対になった巨大な夜叉像がしばしば置かれています。

バラモン教からヒンズー教になると、夜叉は黒い体、猛獣の牙、曲がった爪と青い瞳を持ち残虐で人肉を好む恐ろしい鬼神としての一面を持つようになります。このように神聖性と凶悪性を併せ持つということはヒンズーの神々には一般的に見られます。

仏教はヒンズーの神々を取り入れ、如来の守護神としますが、夜叉も龍と並んで天界にあって如来を守護する八部衆に加えられる。しかし、恐ろしい鬼としての一面もそのまま伝えられたので「今昔物語」をはじめとする多くの物語の中では、特に女の悪

鬼として描かれています。しかし守護神としての一面も残っています。例えば、女の子に「あぐり」という夜叉の名前をつけるのは、無病息災を願うものですし、夜叉の一人である鬼子母神は、子宝や育児の神様とされ、特に江戸時代の大奥の女性たちの間で信仰され、美しい女神として現わされてきました。神様も時代や地域が変わると様々に変化していくのですね。

(浄)



インドで発行されている夜叉の切手

各寺のご案内

◆徳法寺

金沢市野町

二丁目三二―四

☎二四一―五二一九

◎お講(石坂同信会主催)

毎月二十一日

午後七時半より

講師 十月 桐山 信英

十一月 杉谷 浄

十二月 藤塚 曼

一月 杉谷 浄

ご自由にご参加ください。

◆常徳寺

金沢市寺町

五丁目一番二九号

☎二四一―二六四九

編集後記

最近、国の内外で政治がらみのいがみ合いが、特にひどくなっているように思えます。大きな変化の前夜

編集委員

西山 彰 (常徳寺)
杉谷 浄 (徳法寺)

